

モニタリングの視点	指標	内容	調査周期	実施機関(情報の保管機関)
(ア) 遺産価値の状態に関すること				
i. 大陸島における種分化の過程をよく反映した固有種が維持されていること ii. 世界的に絶滅のおそれのある種(IUCNレッドリスト掲載種等)が維持されていること	固有種・希少種の生息状況	【哺乳類】 アマミノクロウサギ, アマミトゲネズミ, オキナワトゲネズミ, ケナガネズミ, イリオモテヤマネコの生息分布状況など	毎年	那覇自然環境事務所、九州森林管理局
		【鳥類】 ルリカケス, オオトラツグミ, ヤンバルクイナ, ノグチゲラ, アマミヤマシギ, カムリワシ等の生息分布状況など	毎年	那覇自然環境事務所、九州森林管理局、民間団体
		【爬虫類】 オビトカゲモドキ, クロイワトカゲモドキ, リュウキュウヤマガメの生息分布状況など	毎年	那覇自然環境事務所、九州森林管理局
		【両生類】 アマミシカワガエル, オキナワイシカワガエル, オットンガエル, ナミエガエル, ホルストガエル, アマミハナサキガエル, ハナサキガエルの生息分布状況など	毎年	那覇自然環境事務所、九州森林管理局
		【昆虫類】 ヤンバルテナゴコガネの生息分布状況など	毎年	那覇自然環境事務所、九州森林管理局、ヤンバルテナゴコガネ密猟防止協議会、民間団体
iii. 推薦・登録時の生物多様性が維持されていること	レッドリスト掲載種の生息・生育状況	絶滅危惧種等の生息・生育分布状況	不定期	環境省野生生物課、鹿児島県、沖縄県
	基礎的な環境情報の状況	モニタリングサイトにおける基礎的な環境情報の収集	不定期	環境省生物多様性センター
(イ) 完全性に関すること				
iv. 開発行為による固有種・絶滅危惧種や生息・生育環境への影響が低減されている／過去の影響が改善されていること	推薦地とその周辺の植生の状況(特に森林、溪流帯、雲霧林)	森林の配置、面積、植生の変化など	概ね5年ごと	九州森林管理局、環境省生物多様性センター
	アマミノクロウサギ, ヤンバルクイナ, イリオモテヤマネコ, カムリワシなど地域を代表する中型動物の交通事故等	交通事故情報、死亡個体の情報など	毎年	那覇自然環境事務所、鹿児島県
v. 気候変動や災害の影響または、影響の予兆が早期に把握されていること	推薦地の気象の変化の状況	気圧、気温、湿度、風向・風速、日照時間、日射量、降水量 台風発生件数、接近・上陸数、経路など	毎日	気象庁
	推薦地の気象、植生の変化の状況	沖縄島北部、西表島における定点撮影	毎日	環境省生物多様性センター
	推薦地とその周辺の植生の状況(特に森林、溪流帯、雲霧林)	森林の配置、面積、植生の変化(外来植物の侵入状況を含む)など	概ね5年ごと	九州森林管理局、環境省生物多様性センター
	植生の変化と哺乳類・鳥類の出現状況(特に南方系の外来種)	出現する動物の種構成、種数・個体数、外来種の出現状況など	毎年または5年ごと	九州森林管理局、環境省生物多様性センター
(ウ) 保護管理に関すること				
vi. 違法採集者の侵入が防止されていること	固有種・希少種の盗採、密猟防止パトロール等の実施状況	パトロールの年間実施回数、従事人数など	随時	那覇自然環境事務所、九州森林管理局、奄美群島希少野生生物保護対策協議会、ヤンバルテナゴコガネ密猟防止協議会、民間団体
vii. 既に推薦地やその周辺に侵入した外来種が減少していること／新たな外来種の侵入が見られないこと	外来種全般の侵入・定着状況	侵入・定着が確認されている外来種数	毎年(随時)	那覇自然環境事務所、九州森林管理局
	フイリマングースの対策・生息状況	マングースのCPUE(相対生息密度)、確認範囲など	毎年	那覇自然環境事務所
	イヌ・ネコの野外での対策・生息状況	希少種生息域からの排除の状況、CPUE(相対生息密度)、所有者不明イヌ・ネコの収容数、飼いネコのマイクロチップ装着個体数・率など	毎年(随時)	那覇自然環境事務所、鹿児島県、沖縄県、関係市町村、獣医師会
	西表島におけるオオヒキガエル、シロアゴガエルの対策・生息状況	オオヒキガエル未確認日数、シロアゴガエル捕獲努力量、確認範囲など	毎年	那覇自然環境事務所
viii. 推薦地やその周辺(緩衝地帯やその外側)での観光利用等の活動が持続可能な方法で行われていること	入り込み客等の状況	島別(または市町村別)の入込客数・入域客数、拠点施設利用者	毎年(随時)	那覇自然環境事務所、鹿児島県、沖縄県、関係市町村
	エコツアー等利用者	西表島ヒナイ川周辺等の保護林内におけるエコツアー等利用者数、北船付川木道利用にかかるガイド講習参加者数	毎年	林野庁九州森林管理局
	エコツアーガイド・事業所	奄美大島における認定ガイド数、沖縄県における保全利用協定締結事業所数	毎年(随時)	奄美群島広域事務組合、沖縄県
ix. 推薦地周辺(緩衝地帯やその外側)で農業や林業が持続可能な方法で行われていること。				